

静止気象衛星の更なる活用に向けた調査事業

担当府省庁：気象庁

(事業費：30百万円、対象事業：調査・研究開発事業、事業実施期間：R8)

連携先：情報通信研究機構、環境省

事業目的

我が国全体の事前防災能力の向上を図るため、静止軌道上で我が国を常時監視している静止気象衛星ひまわりの観測データの応用利用や衛星自体にセンサを追加搭載する等の更なる活用について、調査及び実現に向けた概念設計を実施することで、他省庁等関係機関の防災業務への実装を目指します。

事業概要

(現状・課題)

- ・静止気象衛星ひまわりは、我が国上空を常時監視できるよう静止軌道上において運用中であり、最新技術を活用した観測センサ（雲や大気中の水蒸気量等を観測する、カメラのようなもの）を搭載しています。
- ・気象庁では静止気象衛星ひまわりの整備に向けた検討を進めているところ、最新のセンサにより得られるデータの応用や、静止軌道上で運用しているという特長を活かした他センサの同時搭載等を検討しています。

(取組内容)

- ・防災分野に関係する他省庁等関係機関におけるニーズ調査等を実施したうえで、具体的な調査等が必要なものについて実現可能性に関する調査・概念設計を行います。

実施イメージ・具体例

今回の事業

静止気象衛星の
更なる活用に向けた調査

調査結果の
反映

気象庁事業

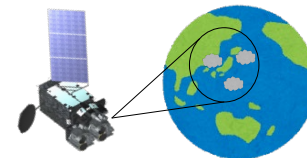
静止気象衛星の
整備

新規事業

静止気象衛星の観測データの応用利用やセンサ同時搭載の実現

○静止気象衛星ひまわりによる、地球上の気象現象の監視に加え、

- ・気象センサの高性能な観測機能を活かし、火山活動等の気象以外の防災情報も取得
- ・静止軌道上での運用の特長を活かし、防災分野に活用可能な他センサの同時搭載



事業のスキーム

関係
機関

調査

連携

気象庁

委託費

民間
団体

事業により得られる効果（アウトカム）

日本域を常に観測できる静止軌道上の希少な位置にある静止気象衛星ひまわりの特長を最大限有効活用し、省庁等関係機関における事前防災の取組を推進します。